

駐日大使ら企業視察

〔西原〕環境に配慮した新エネルギー開発に取り組み県内中小企業視察として、外国の駐日大使や公使参事官らが24日、ステンレスの製造・販売などを手掛けつつ、環境リサイクル装置の開発・製造に取り組み日進(西原町、津嘉山貞雄社長)を訪れた。

財団法人貿易研修センターが年1回企画しているツアーで、今回は世界15カ国から大使7人を含む15人が参加した。

日進のリサイクル装置

津嘉山社長の説明を受けたが、廃プラや発泡スチロール、植物廃油を回収し、ディーゼル燃料などに再利用する装置や化石燃料不要の焼却炉など、大手柄の特許技術に触れた。リサイクル燃料を使ったバイクにも試乗した。

地方の面白い実力実感

ノルウェー大使館のインガ・M・W・ニイハマー公使

参事官(43)は「見るものすべてが興味深く面白い。東京だけでなく、地方でも環境リサイクルが進んでいる日本の現状が分かった」と感想を語った。

一行は、中部の健康関連企業も訪問した。25日は県庁に「廃プラから燃料をつくる工程の仲井真弘多知事を表敬する。説明を受ける駐日大使館の訪問団一行」24日午後3時40分ごろ、西原町小那覇・日進

一行は、中部の健康関連企業も訪問した。25日は県庁に「廃プラから燃料をつくる工程の仲井真弘多知事を表敬する。説明を受ける駐日大使館の訪問団一行」24日午後3時40分ごろ、西原町小那覇・日進

